



◎土木主任官招待宴

正月十二日から土木主任官會議が召集されたので、夫れを機會に平素厄介に爲つてゐる本會と港灣協會とが共同して、主任官と夫れに同行された關係者を矢の倉、福井樓に招待したが、各府縣の關係者數百名の來會で不景氣風を一掃したやうな感があつた。

本會と港灣協會との會長を兼ねてゐる水野鍊太郎氏が、久しう振りに出席されて例の調子で挨拶された、失業者救濟の爲に道路改良の事業が計畫され夫れの爲に各位が東上されて今夕各位に相見えることは頗る満足する所であると前提され、此事たる本會の義に主張したところであつて列席

の山田理事やら橋本監事が、當時主管大臣に陳情したのであつたが、政府も幸に本會の意見を容れて今回諸君を召集するやうに迄進展したのは頗る満足する所であるが、尙事の遅かつたのを遺憾とすると言つた調子で、熱辯を振はれた、港灣協會の爲にも主任官が常に努力して、今日の盛況を見るに至つたことを感謝し、道路改良會と港灣協會とが全く主任官各位のお蔭で今日に爲るに至つたと深甚の敬意を表され、之に對して愛知縣土木部長の宮島三郎君が、年長者として潛越居士の役目を勤め兩會が道路や港灣の改善發達に努力してゐることを深謝し、地方土木主任官も其の鞭撻に依つて兩行政の進展に力めてゐることを述べ、此後に於ても援助を希望する挨拶を述べた、由來福井樓の宴會は座敷が廣いのと女主人公の名が高いので有名と爲つたのだが、地方で大名格の主任官が満足して呉れるかドーカを案じてゐた兩會の幹部は、主任官の歸りの足が遅いので頗る満足した。

◎牧理事監修「高等土木工學」の進展

本會理事工學博士牧彦七氏を中心として編輯された「高等土木工學」は、不景氣の真最中に第一回のものを配本したので販賣成績を疑はれてゐたが、事實は其の疑問を解決

した。夫れは執筆者が内務鐵道兩省に於ける權威者や、東

西帝大や九大に於ける學者であるので、世上多大の歡迎を受け最初の申込は五千を超過するに至つた、第一回の配本に屬する佐藤利恭君の軌道工學や清水興君の高速度鐵道工學は、我が路政に緊密の關係を持つものであつて、路政に關係を有する者の必讀すべき良著として推賞されてゐる。

第二回配本の工學博士鈴木雅次君の「港灣工學」もさすが斯界の權威者たるだけに技術界の推賞著しきものがある、第三回配本に屬する帝大關信雄君の測量學や、第四回配本の内務授師三浦七郎君の「橋梁工學」は土木技術界垂涎の的と爲つてゐる、斯く世上の歡迎を受くるに至つたのは牧博士が、執筆者の選擇を誤らなかつたのと、執筆者が牧博

士の所望に同情したことであつて、本全集が大量生産の下に低廉にして學究を民衆に提供したことは、寔に喜ぶべきことであつて、恐らく此後に於ける土木技術界を支配する良著と言つて可いであらう。

◎道路研究會の近況

道路研究會では去る十二月十六日例の如く學士會館で二月の例會を催し目下審議中に屬する瀝青撒布路面處理示方書について最後の討議を行つた。永い間採みに採んだ審議も漸く今回で片付き標準示方書が漸く生れたわけである。此次はセメントコンクリート鋪装の順序になつて居るが之も目下審議進行中であるから此二つの標準示方書が出版さるゝのも遠くはあるまい。

道路研究會も次第に盛大に向ひ現在では約百數十名の會員を擁してゐる。主として東京及びその附近に在住する道路關係技術者でその中には内務省、復興事務局、東京府、東京市等官公廳の技師や又セメント、アスファルト、ター

ル、煉瓦、及乳劑等あらゆる道路材料を直接扱つてゐる民間の權威者をも網羅してゐる。

全會員の中から互選された幹事數名が互に協力して會務を處理してゐる本年度の幹事には左の八氏があげられる。

近藤謙三郎君 坂田時和君 關根博君 早田成雄君

長江了一君 三木榮三君 山本亨君 江守保平君

又各部門にわけられた道路技術に關する實際の研究は各別の委員會に委されて居るが現在活動中の委員會の顔振は次の如くである。

シートアスファルト鋪裝

關根博君 三木榮三君
山田忠雄君 山本亨君

小鋪石道

近藤謙三郎君 早田成雄君
高田昭君 江守保平君

路面構造

近藤謙三郎君 早田成雄君
中島時雄君 江守保平君

瀝青撒布路面處理

森豊吉君 山本亨君
早田成雄君 武富美春君

セメントコンクリート鋪裝

中島時雄君 大石義郎君
折坂理五郎君 伊智地彌彦君
有馬芳彦君 山田忠雄君
花房利市君 江守保平君

以上の如き組織で道路に關する各種示方書の研究に没頭してゐるがその他毎月一回開かれる例會を利用して會員相互の研究の發表及討議を行ひ、又その他道路に關係ある講演會を催したり視察旅行を催したりしてゐる。

道路研究會が今の様な統一された組織になつたのは茲二三年間であるがそれ以前或はアスファルト研究會、或は道路茶話會と云ふ様な名稱で餘程前からその存在を認められてゐた。將來益々多事ならんとする道路界の將來に於て道路研究會の存在は心強きものゝ一つである。